

市長賞

(小学生の部)

社会を明るくするための「言葉の力」

岸和田市立中央小学校 6 年

馬野 結子 さん

私は、社会を明るくするためにはよく話す事が大切だと思います。普段から友達や家族とよく話し合う事ができれば、非行や犯罪に至る前の段階で周りの人に相談できるのではないのでしょうか。

私は何か嫌なことがあった時は家族に愚痴を言います。聞く方としては長々と人の悪口ばかり言われるのは気分が悪いと思いますが、本当にそのことが嫌で嫌で仕方ないとき、他の人に聞いてもらおうとスッキリします。

でも、普段あまり話さない、あまり仲良くない状態では恥ずかしかったり、言いづらかったりしてうまく吐き出せず、溜め込んでいずれ爆発してしまうかもしれません。なので、普段から面白かったこと、楽しかったことをよく話して、困った時に頼れる人を見つけることが大切だと思います。私は夜ごはんを食べるとき、お父さんやお母さんにその日あったことなどを話しています。その理由はただ黙って食べるだけでは、みんなスマホを見てしまって面白くないからです。難しいことは特に考えていませんでしたが、今日から少しこのことを気にするようにしてみます。それに、自分が話をするすることで、周りの人が笑ってくれると、私はとても嬉しいなと思います。

言葉を使うと、たったひとことで犯罪を止めることも進行させることもできます。私は姉妹がくっついてきてうっとうしいなあと思ったとき、とっさに力づくで引きはがそうとしてしまいます。でも、たったひとこと言ってくれば、私は「それ嫌やからやめて」と断ることが出来ます。反対に、嫌なことを言われたりバカにされたりしてなぐり合いのケンカをしてしまう人もいます。

言葉は身振り手振りよりもスムーズに、伝えられることが多いからこそ、時に犯罪の火種になってしまうことがあります。それを理解して使い方を考え、相手のことを想って話し合うことが重要だと思います。

それでも、犯罪に走ってしまう人は世の中にたくさんいます。完全に悪意を持って行う人、とっさに手が出てしまって悪者とされる人。いずれにしても、「犯罪を起こした」という事実は変わらず、人からの信頼をなくします。それは犯罪にはならなかったものもそうで、一度物を壊せば、次にそういったことが起ったとき一番初めに疑われるのはその人です。

しかし、反省して真つ当に生きようとしている人に、いつまでもいつまでも「犯罪者」と言い続けるのはそれこそ侮辱罪になるのではないのでしょうか。

だからこそ、よく話す事がまた重要になってくるのだと思います。よく会話すれば話

しているうちにその人の性格や気持ちが少しずつわかってきます。そうして仲良くなって、自分達はその人の「困った時の頼れる人」になることができれば、その人が犯罪を犯す可能性は格段に下がるのではないのでしょうか。みんなが誰かの「困った時に頼れる人」になっていけば、犯罪を犯す人はだんだんと減っていくと思います。そして、それぞれが誰かを頼って頼られて、明るい社会が出来上がっていけばいいなと思います。